

河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

思川だより

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所



特別寄稿

「水資源の有効利用……思川開発事業は命の源」

茨城県古河市長 白戸 伸久



昨年9月12日、旧古河市・旧総和町・旧三和町の合併に伴い給水人口13万8千人を有する新「古河市」として利水者の一員に加わったことを、まずご報告申し上げます。

本市は茨城県の西の玄関口として、南には利根川そして西には渡良瀬川（渡良瀬遊水池）を眼下に望むところに位置し、昭和37年に地下水を水源とした水道事業がスタートしました。その後、高度経済成長等を背景に急激な水需要の増加に直面したことから、昭和49年、利根川水系思川の表流水を新たな水源として取水を開始し、今日まで市民への水道水供給に努めて参りました。

しかしながら、思川開発事業への参画を前提とした暫定水利権による水道水供給は、当然ながら暫定的措置であり、水道事業を運営する自治体及び市民の悲願である真の安定給水を確立するためには、本水利権取得が最大の懸案でありました。

昭和44年の実施計画調査に着手以来、水没地域の住民各位の苦渋の決断、そして地元鹿沼市・栃木県及び国・水資源機構並びに利水県等関係機関の永きにわたる努力の結果、平成13年12月に南摩ダム建設に伴う損失補償基準に関する協定書の調印、また平成14年4月には事業縮小に伴う事業実施計画の一部変更が行われるなどして今日に至ったことに対し深い感謝と敬意を表するものであります。

事業は南摩ダムを建設し、①洪水の被害を軽減する洪水調節、②川を流れる水の量を安定させる不特定補給、③暮らしに欠かせない水を新たにつくる新規利水の開発という3つの重要かつ不可欠な目的を持つものであり、近年の地球的規模の異常気象が起因する災害等にも鑑み、目標年度に向け一日も早い完成が望まれます。

今後は、水没地の方々の移転終了に続きダム本体の工事、水源地域整備計画の決定に伴う事業など本格的工事が着手されるため工事の安全を祈念するとともに、微力ながら利水者として可能な限りの事業推進をお約束し、特別寄稿といたします。

新年のご挨拶

思川開発建設所長 森田 義則



新年あけましておめでとうございます。皆様方には日頃より思川開発事業の推進につきましてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

南摩ダム水没関係者の皆様方の移転につきましては、お陰様で全て完了することができました。改めて御礼申し上げます。また、ダムサイト直下の室瀬地区につきましても、補償契約の推進を図るため協議を進めさせていただくとともに、事業に対してご理解が得られていない方に対しましても、ご理解とご協力が得られるよう努めて参りたいと存じます。

次に、付替県道並びに工事用道路につきましては、用地調査、技術調査を引き続き実施し早期に工事に着手できるよう準備を進めて参ります。

一方、導水路、取水・放流工の関係地区につきましては、東大芦川ダムとの関係で地元への説明が遅れていた東大芦地区の用地調査に着手し完了することができました。取水・導水地区の皆様方には引き続き説明を行うことにより不安を解消して頂き、事業にご理解いただけますよう努力して参ります。

事業の実施にあたり私たちは、地域社会の一員であることを念頭におき、職員自らが知識を習得し、行動に移し、自然との共生を図り、良好な水環境の保全に取り組んで参ります。

水資源機構は、「安全で良質な水を安定して安くお届けする」ことを経営理念として掲げ、さらなるコスト縮減、環境及び水質保全、地域との連携に努め、お客様であるユーザーの皆様方、国民の皆様方のニーズに応じて参ります。

今後とも、地権者の皆様方をはじめ地元の関係団体、地域住民の皆様方、関係行政機関、ひいてはユーザーや国民の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



←今年もよろしくお願いたします！（18. 1. 4撮影）

平成 18 年事業年度予算概算額の決定と 思川開発事業の進捗状況について

思川開発事業の平成 18 事業年度予算概算決定額が 79 億 2 千万円と決定しました。

思川開発事業は、平成 13 年 12 月水没損失補償基準締結後、生活再建を最優先に南摩ダム水没予定地の用地取得に取り組んでいます。平成 17 年 12 月末現在の状況は、水没移転契約 97% で、用地取得面積は 83% の進捗率です。

平成 18 年度の予算の内容は、用地先行取得償還費として約 53 億円の他、南摩ダム及び導水路の実施設計、関連施設の測量調査・設計、環境調査並びに導水取水・放流工の用地取得、水没地及び付替県道の用地取得等となります。



「かぬま産業交流フェア」に参加 しました

思川だより第 17 号でもお知らせしたとおり、昨年 11 月 18 日(土)、19 日(日)に鹿沼商工会議所催事ホール及びその周辺で開催された「かぬま産業交流フェア」(主催:かぬま産業フェア実行委員会)に参加しました。

両日とも晴天の中、鹿沼市内外から大勢の来客があり、当機構のブースも大にぎわいでした。ステージでは鹿沼市長の開会挨拶のあと、ミニコンサートや苗木の配布なども行われまし



↑ 開会式で鹿沼市長挨拶

た。また、展示会場では、そば職人による手打ちそばの実演も行われ、訪れた方々は舌鼓を打っていました。

当機構も、昨年に比べて展示ブースを増やし、ゆったりと広報パネルを見ていただくことができ、好評を博しました。次回以降も、更に充実した広報に職員一同、努めて参りたいと思います。



↑ パネルの内容をクイズにしました



こんにちは！

の 南摩仲間たち



←オニグルミ(冬芽と葉痕)



アブラチャン(冬芽)→

その⑬

冬芽(ふゆめ)と葉痕(ようこん)

この冬は各地で大雪に見舞われているようですが、南摩でも雪が舞い、日陰には残雪が見られます。そんな厳しい冬ですが、植物たちは黙々と春の到来を待ちわびています。

樹木は、冬になる前に冬芽を生じ、冬芽に栄養を蓄え、春を待ちます。また、この時期、落葉樹は葉を落としますが、この葉の落ちた痕(あと)は葉痕と呼ばれます。

冬芽や葉痕の形は、木の種類によって異なり、それぞれ個性的で、想像力をかき立たせます。南摩にも多くの木々があり、その冬芽や葉痕に人や動物の顔を見ることが出来ます。

左の写真はオニグルミの冬芽と葉痕です。葉痕が羊や猿の顔に似ていることでよく知られていますが(オニグルミは南摩の中村地区で見られます)。

また、右の写真はアブラチャンの冬芽です。マラカスを振る人に見えませんか!? (アブラチャンは沢や川沿いに見られます)

寒い冬ですが、ちょっと外に出て、春を待つ木々の姿に心をほっこりとさせてみませんか。

人事異動

十二月一日付で異動のありました職員を紹介いたします。

◆転出者◆「お世話になりました」(転出先)
第二用地課 荒木 段(徳山ダム建設所)



編集後記

平成 18 年が明けました。この冬は例年になく日本海側で大雪が続き、列島全体に寒い日が続きますが、温かいお風呂に浸かって寒さを乗り切りたいものです。

事業の推進に向け、職員一丸となって頑張ってください。今年もよろしくお願いたします。

編集・発行所



独立行政法人 水資源機構

思川開発建設所

〒320-0065 宇都宮市駒生町中丸3368

Tel(028)622-8941 Fax(028)622-8945

ホームページ <http://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.html>

鹿沼事務所

〒322-0346 鹿沼市上南摩187-18

Tel(0289)77-3888 Fax(0289)77-3890